

# 高齢者のコミュニケーションと生きがい・余暇活動に関する研究 —SNS利用に着目して—

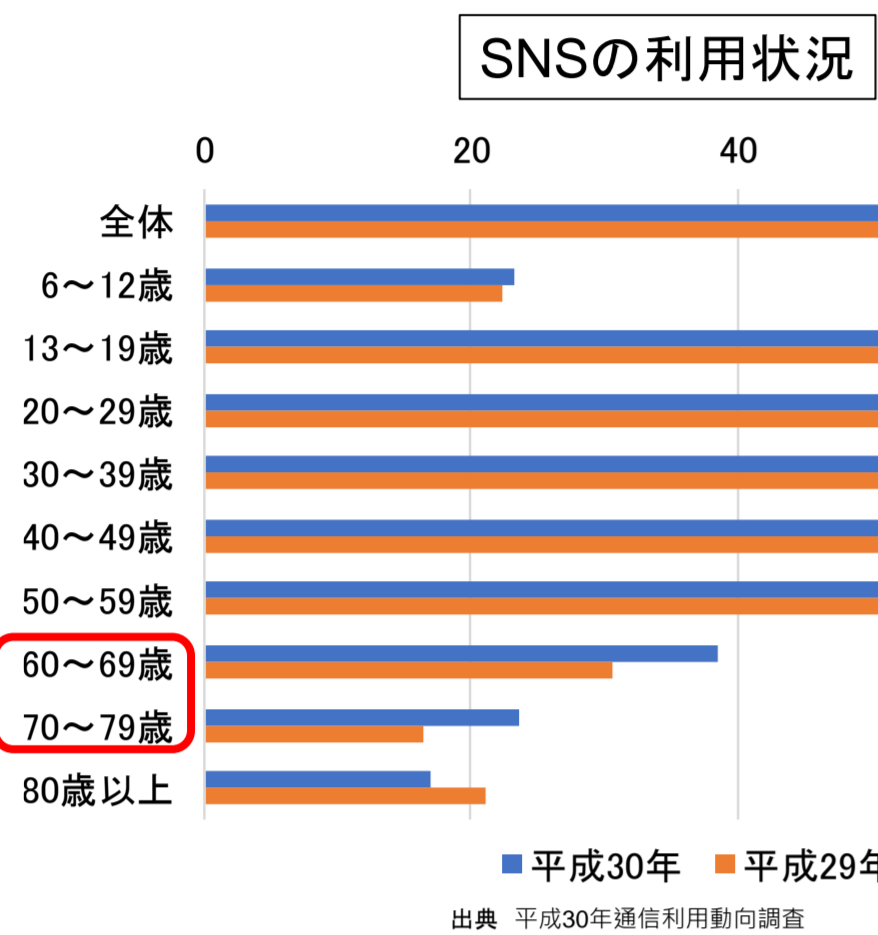
交通まちづくり学研究室 2021年度修士研究 山下壮太

## 研究の背景

- 急速な高齢化に加え、老後の生きがいに対する不安が顕在化
- 高齢になるにつれ余暇活動時間が増加していることから、充実した老後の生活には余暇活動の充実が不可欠

高齢者の豊かな老後のためには、生きがいや余暇活動の充実が必要不可欠

一方、近年ではSNSが普及



高齢者において利用者が増加

SNSの利点

- 新しいつながりの創出
- 既存のつながりの強化

SNSの利用が、高齢者の生きがいや余暇活動と関連するのではないか

## 研究の目的

高齢者のSNSに着目し、生きがいや余暇活動との関連性を明らかにする

## 分析結果

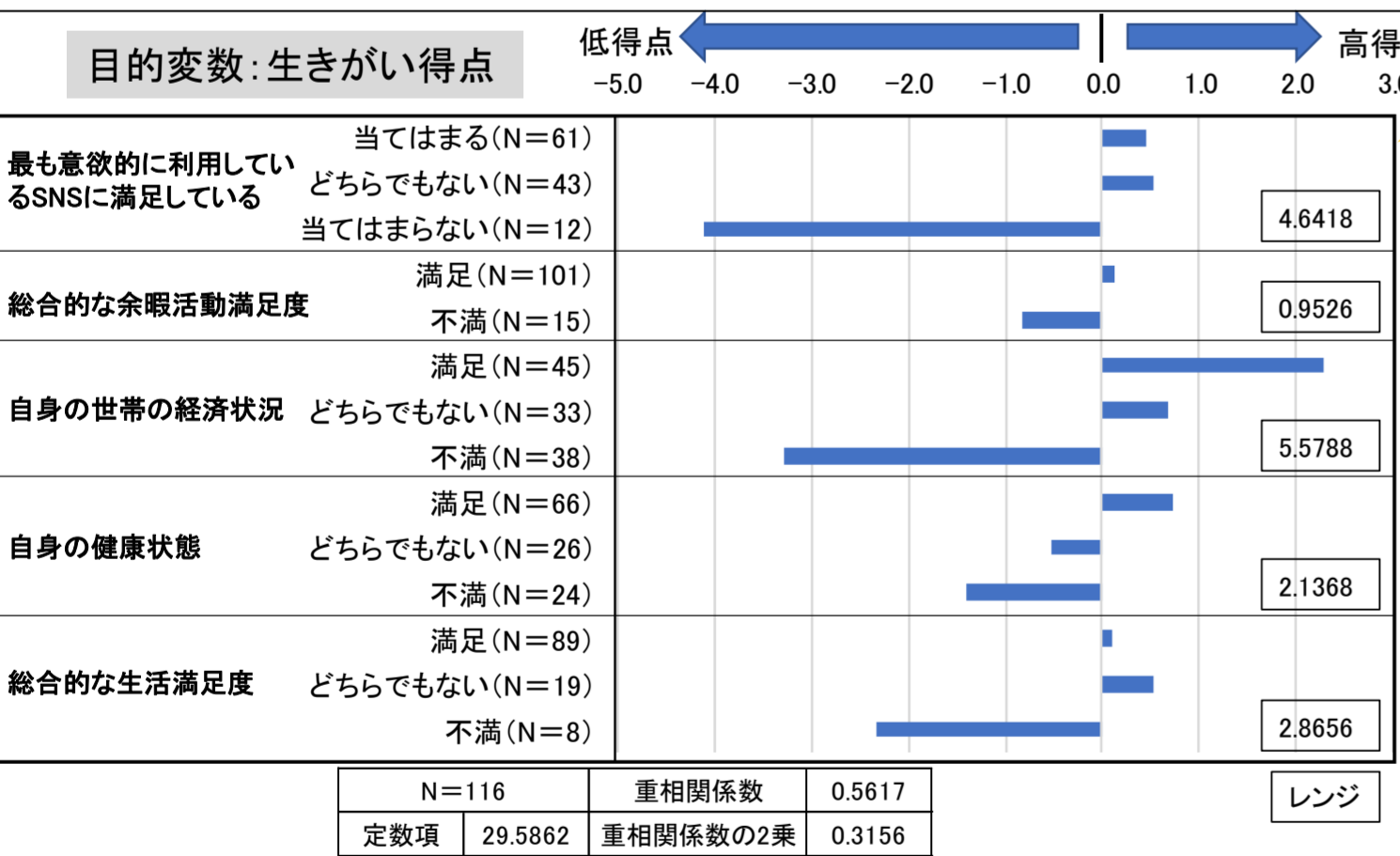
対面コミュニケーションの頻度とSNS利用に着目した生きがいの構成要素の把握

SNSの利点・・・空間的・モビリティ的な制約を超えてコミュニケーション機会を提供

対面コミュニケーションの補完的な役割を果たすことで、高齢者の生きがいの構成要素となり得る？

対面コミュニケーションの頻度を3つ（毎日、週1日以上、週1日未満）に分け、それぞれの頻度ごとに数量化I類分析を実施

対面コミュニケーションの頻度が週1日以上の人々の数量化I類分析の結果



SNSの要素 ⇒ 2番目に影響力をもつ

自身の世帯の経済状況の影響が最も大きい

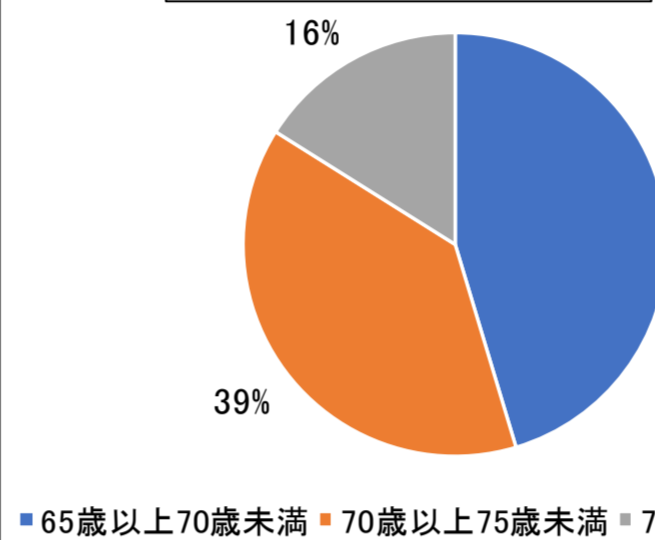
対面コミュニケーションの頻度が週1日以上の人において

最も意欲的に利用しているSNSに満足していることが、生きがい得点に与える影響が大きい

## 調査概要

- 全国を対象としたWebアンケートを実施
- SNS利用者とSNS非利用者、男性と女性をそれぞれ半数ずつサンプリング
- Twitter、Facebook、Instagramを調査対象SNSとする
- コミュニケーションを対面コミュニケーションとテキストコミュニケーション（メール、LINE等）に分類

アンケート回答者の年齢構成比

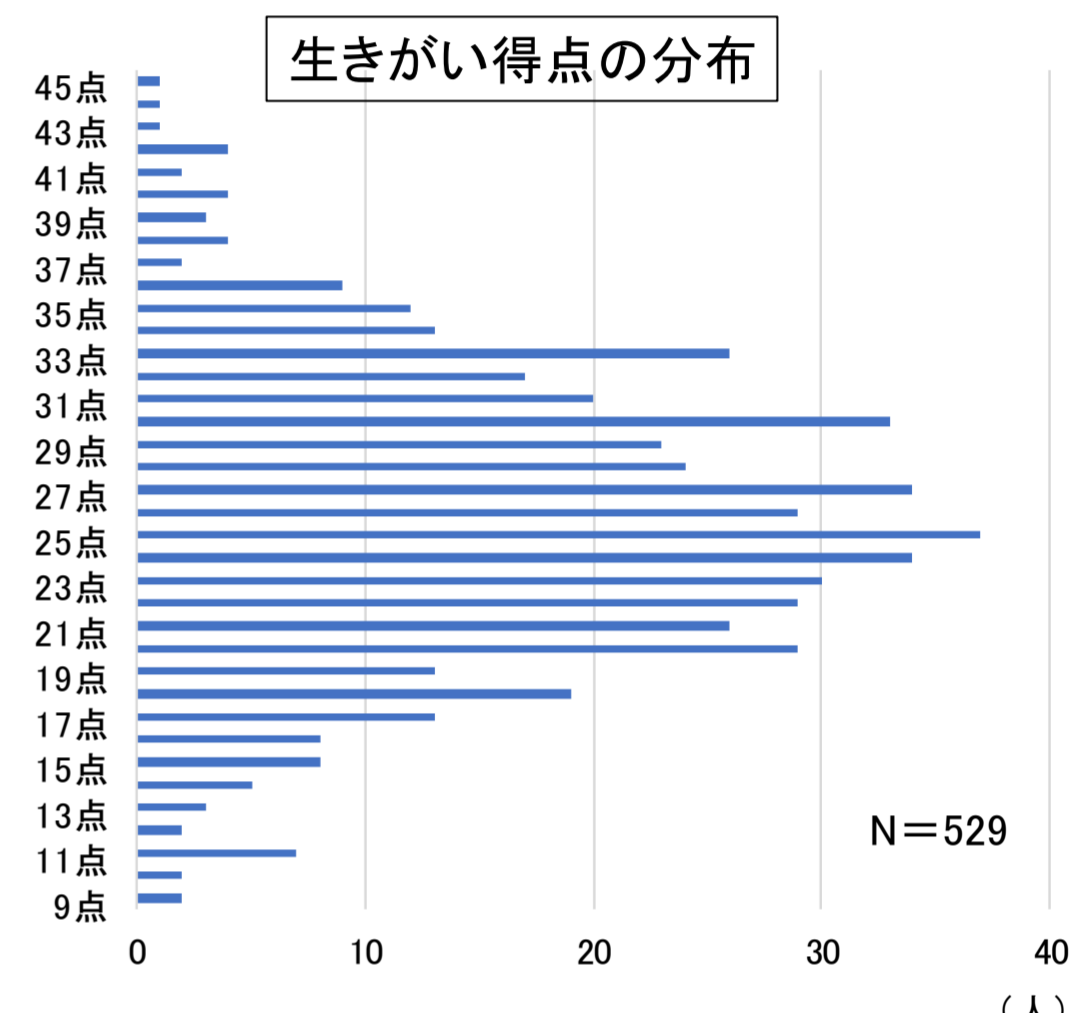


調査名: 高齢者のSNS利用とコミュニケーションに関する調査			
調査方法	Webアンケート		
調査時期	2020年1月		
調査対象地域	全国		
調査対象者	SNSを週1日以上利用している男性	SNSを週1日以上利用している女性	SNSを週1日未満利用、もしくは利用していない男性 / SNSを週1日未満利用、もしくは利用していない女性
総数	132人	132人	133人 / 132人
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人属性</li> <li>● SNS利用状況及びSNSの投稿・閲覧に関して</li> <li>● 対面コミュニケーションの実施状況及び満足度</li> <li>● テキストコミュニケーションの実施状況及び満足度</li> <li>● 生きがい意識尺度 (Ikigai-9) を用いた生きがいの測定</li> <li>● ソーシャルキャピタルを用いた地域とのかかわり具合の測定</li> <li>● 余暇活動実施状況及び満足度</li> <li>● 移動状況</li> <li>● 生活満足度</li> </ul>		

## 使用尺度

生きがい意識尺度 (Ikigai-9) を使用

- 項目数が少なく、回答者の心理的負担が少ない
- 内容的妥当性・併存的妥当性・因子的妥当性の3点から妥当性を検証
- 都市計画分野や作業療法分野で使用されている



## 総合的な余暇活動満足度の構成要素の把握

目的変数: 総合的な余暇活動満足度

変数	満足 (N)	不満 (N)	得点
総合的なコミュニケーション満足度	満足 (N=340)	不満 (N=189)	1.0903
最も意欲的に取り組んでいる余暇活動で一緒に取り組む相手	一人で (N=331)	友人・知人と (N=93)	0.3705
取り組んでいる余暇活動の数	1~5種目 (N=179)	6~9種目 (N=195)	0.6396
自身の世帯の経済状況	満足 (N=235)	どちらでもない (N=152)	0.2964
自身の健康状態	満足 (N=276)	どちらでもない (N=132)	0.0943
自身の時間的な余裕	満足 (N=389)	どちらでもない (N=111)	1.0517
年齢	65歳以上75歳未満 (N=444)	75歳以上80歳未満 (N=85)	0.0475

軸の重心: 満足 1.0542, 不満 -0.2961

総合的なコミュニケーション満足度の影響が最も大きい

友人・知人と取り組む ⇒ 満足側に影響

取り組んでいる余暇活動の数 ⇒ 多いほど満足側へ影響

総合的なコミュニケーション満足度のレンジが最も大きく、余暇活動満足度を向上させる重要な要素である

## 総合的なコミュニケーション満足度の構成要素の把握

目的変数: 総合的なコミュニケーション満足度

変数	満足 (N)	不満 (N)	得点
最も意欲的に利用しているSNSに満足している	当てはまる (N=119)	どちらでもない (N=98)	0.2960
家族・親戚との対面コミュニケーションの有無	行った (N=184)	行わなかった (N=33)	0.2437
友人・知人との対面コミュニケーションの有無	行った (N=148)	行わなかった (N=69)	0.3953
対面コミュニケーションで自分の気持ちや考えを表現している	当てはまる (N=119)	どちらでもない (N=77)	0.4789
対面コミュニケーションに満足している	当てはまる (N=170)	当てはまらない (N=47)	0.9945
テキストコミュニケーションの頻度	毎日 (N=42)	週1日以上 (N=128)	0.5944
友人・知人とのテキストコミュニケーションの有無	行った (N=157)	行わなかった (N=58)	0.2573
テキストコミュニケーションが好きである	当てはまる (N=122)	どちらでもない (N=68)	0.9106

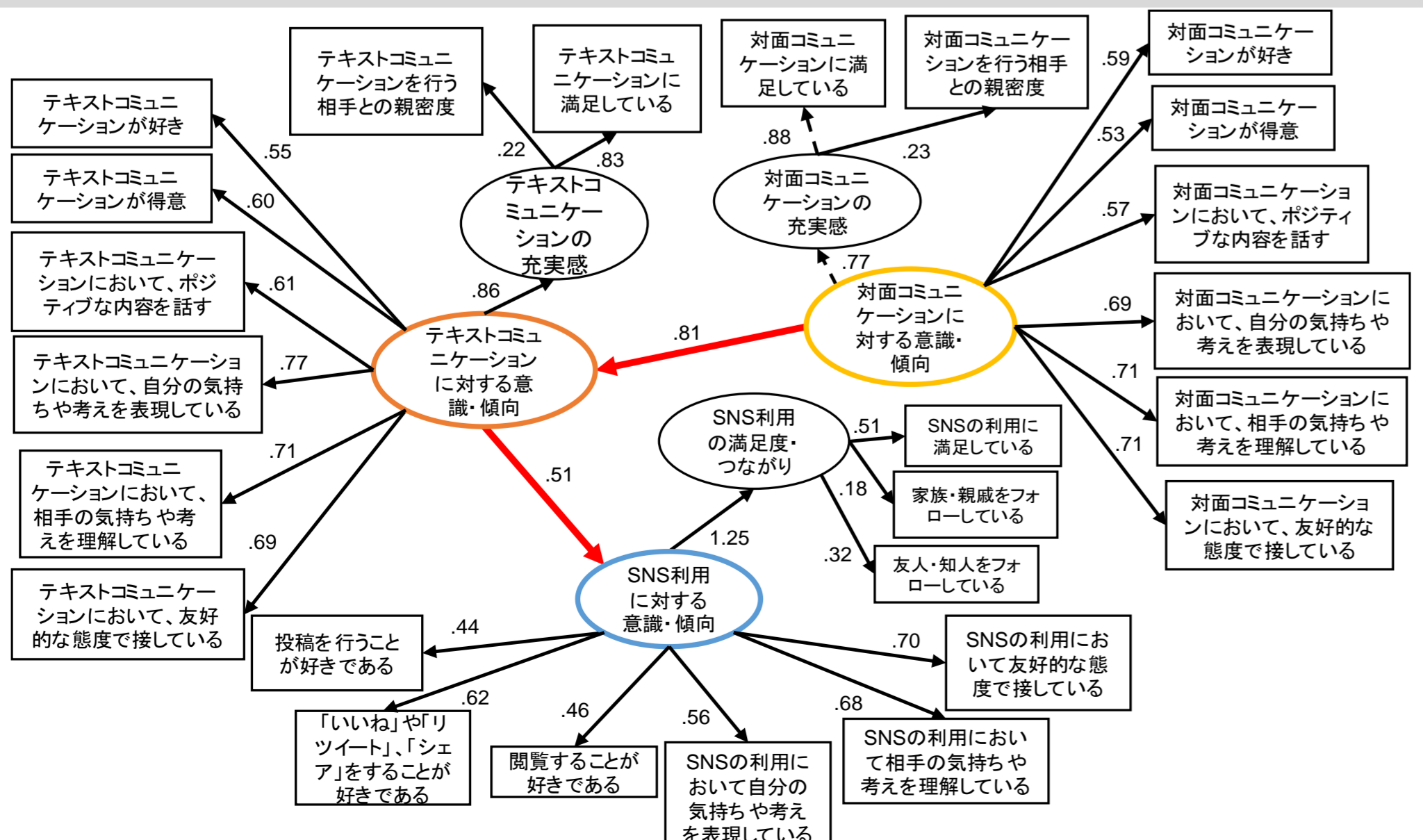
軸の中心: 満足 0.8373, 不満 -0.374

SNS利用の要素が説明変数になった

対面コミュニケーションの影響が最も大きい

SNS利用が総合的なコミュニケーション満足度を構成する要素である

## 対面コミュニケーション、テキストコミュニケーション、SNS利用の関連性把握



## まとめ

- 対面コミュニケーションの補完的な役割としてSNSを利用することで、生きがいの構成要素となる可能性が示唆された
- SNSの利用が間接的に余暇活動の満足度に影響している可能性が明らかとなった